図説日本の古典

10

方丈記・徒然草

図説日本の古典

第1巻／古事記	武蔵大学教授 神田秀夫	奈良国立文化財研究所長 坪井清足	学習院大学教授 黛　弘道
第2巻／萬葉集	筑波大学教授 伊藤　博	成城大学教授 上原　和	学習院大学教授 黛　弘道
第3巻／日本霊異記	琉球大学教授 小島瓔禮	文化庁 上原昭一	東京大学助教授 笹山晴生
第4巻／古今集・新古今集	東京大学助教授 久保田　淳	美術史家 白畑よし	聖心女子大学教授 目崎徳衛
第5巻／竹取物語・伊勢物語	大阪女子大学教授 片桐洋一	大谷女子大学教授 伊藤敏子	聖心女子大学教授 目崎徳衛
第6巻／蜻蛉日記・枕草子	学習院大学教授 木村正中	美術史家 白畑よし	東京大学教授 土田直鎮
第7巻／源氏物語	東京大学教授 秋山　虔	学習院大学教授 秋山光和	東京大学教授 土田直鎮
第8巻／今昔物語	早稲田大学教授 国東文麿	美術史家 梅津次郎	京都女子大学教授 村井康彦
第9巻／平家物語	神戸大学名誉教授 永積安明	大阪大学教授 武田恒夫	京都大学教授 上横手雅敬
第10巻／方丈記・徒然草	お茶の水女子大学教授 三木紀人	東京国立文化財研究所 宮　次男	東京大学教授 益田　宗
第11巻／太平記	早稲田大学教授 梶原正昭	東京国立文化財研究所 宮　次男	京都大学教授 上横手雅敬
第12巻／能・狂言	東京大学教授 小山弘志	京都国立博物館 切畑　健	大阪市立大学名誉教授 原田伴彦
第13巻／御伽草子	国文学研究資料館長 市古貞次	美術史家 高崎富士彦	東北大学名誉教授 豊田　武
第14巻／芭蕉・蕪村	福岡大学教授 白石悌三	文化庁 佐々木丞平	学習院大学名誉教授 児玉幸多
第15巻／井原西鶴	埼玉大学教授 長谷川　強	東京大学名誉教授 山根有三	学習院大学名誉教授 児玉幸多
第16巻／近松門左衛門	学習院大学教授 諏訪春雄	大阪大学助教授 信多純一	横浜市立大学教授 辻　達也
第17巻／上田秋成	国文学研究資料館教授 松田　修	名古屋大学助教授 河野元昭	学習院大学教授 大石慎三郎
第18巻／京伝・一九・春水	早稲田大学教授 神保五弥	東京国立博物館 小林　忠	立正大学教授 北原　進
第19巻／曲亭馬琴	明治大学教授 水野　稔	国立国会図書館 鈴木重三	東京学芸大学教授 竹内　誠
第20巻／歌舞伎十八番	早稲田大学教授 郡司正勝	東京国立博物館 小林　忠	成城大学教授 西山松之助

図説 日本の古典10　方丈記・徒然草
昭和55年11月20日　第1刷印刷
昭和55年12月9日　第1刷発行
著者代表——三木紀人　©1980
発行者——堀内末男
発行所——株式会社 集英社
東京都千代田区一ツ橋2-5-10
電話—販売部　東京(03)238—2781
出版部　東京(03)230—6381
振替—15653／郵便番号101

印刷所——大日本印刷株式会社
用紙——王子製紙株式会社
製本——中央精版印刷株式会社
文勇堂製本工業株式会社

製本には十分注意していますが，落丁・乱丁の際は
おとりかえいたします。
0391-167010-3041
Printed in Japan

方丈記・徒然草

図説日本の古典—10

〈企画委員〉
東京大学教授　秋山　虔
国文学研究資料館長　市古貞次
学習院大学名誉教授　児玉幸多
早稲田大学教授　神保五弥
東京大学名誉教授　山根有三

〈第一〇巻・編集委員〉
お茶の水女子大学教授　三木紀人
東京国立文化財研究所　宮　次男
東京大学教授　益田　宗

集英社

目次

●カラー図版●大福光寺本『方丈記』／大原／長明方丈石／『長明法師画像』／京都市現景／『兼好法師画像』／称名寺／兼好の和歌懐紙／金剛力士立像〈運慶・快慶作〉／『地獄極楽図屏風』／『餓鬼草紙』／『徒然草屏風』〈鍬形恵斎筆〉／『方丈記』の諸本／『徒然草』の諸本

隠者文学とその周辺　三木紀人……24
「山里」をめぐって　大原など　隠者たちの情念と志向

『方丈記』—作品紹介　三木紀人……36
世の無常　方丈の庵

長明の風景と文学—『方丈記』をめぐって　三木紀人……52
ゆく河　京中　真葛原　日野外山　庵の周辺

●図版特集●
安元の大火　益田　宗……61
『平治物語絵詞』／『伴大納言絵詞』／『信貴山縁起』／『年中行事絵巻』／『扇面法華経冊子』

『方丈記』の世の不思議　益田　宗……68
武士の世の貴族たち　打ちつづく天災　鴨長明の無常観

●図版特集●
運慶と鎌倉彫刻　宮　次男……77
阿弥陀如来坐像／不動明王及二童子立像／世親菩薩立像／僧形八幡神坐像／金剛力士立像／観音菩薩立像／天灯鬼・竜灯鬼立像／重源〈俊乗上人〉坐像／上杉重房坐像

鎌倉美術とリアリズム　宮　次男……84
鎌倉美術の特色　彫刻における人間像　肖像にみる写実

二つの軌跡—長明と兼好　三木紀人……94
鴨長明　兼好

『徒然草』—作品紹介　三木紀人……104
序段の予告するもの　望ましき生を求めて　他者とのかかわり　女性—その魅力といとわしさ　美と無常
さだめなき世　否定と離脱　遁世者たちのおもかげ　微苦笑の世界　都鄙の話題　知恵ある人々
回想の中から

●図版特集●
南北朝時代の歌人—『宝積経要品』紙背和歌短冊　益田　宗……141
はるかなる王朝—兼好と古き世　三木紀人……148
遅れて来た兼好　王朝文学をめぐる兼好の目と手
二条河原落書—『徒然草』の背景　益田　宗……156
建武の新政と二条河原の落書　二条河原の落書と世相
●図版特集●
海北友雪筆『徒然草絵巻』　宮　次男……165
祖師伝絵巻の流布　宮　次男……172
新興仏教の祖師伝絵巻　祖師伝絵巻の性格
●図版特集●
地獄の諸相—『六道絵』　宮　次男……181
「等活地獄」／「黒縄地獄」／「衆合地獄」／「阿鼻地獄」／「餓鬼道」／「阿修羅道」／「人道苦相(二)」
絵画にみる『往生要集』　宮　次男……188
中世人の往生願望　『往生要集』の地獄絵　中世地獄絵と浄土図
●図版特集●
新仏教の始祖たち　益田　宗……197
『法然上人画像』／『法然上人行状絵図』／『親鸞上人画像』／『一遍聖絵』／一遍上人立像／『日蓮聖人画像』／誕生寺／栄西禅師坐像／建仁寺方丈／『道元禅師画像』／永平寺全景／『普勧坐禅儀』
貴族仏教からの脱皮　益田　宗……204
浄土教の流れ　新仏教の形成　法華と禅
京都市近郊略地図　三木紀人……213
長明・兼好年譜　三木紀人……214

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com

凡例

1　古典文学の珠玉の名作を立体的に構成した本シリーズでは、その内容をさらに意義づけるため、その部分の執筆者が各図版の解説にあたったが、それ以外の場合は、とくに解説の末尾に氏名を付記した。

2　本巻の仮名づかいは、原則として現代仮名づかいによった。古文の引用については、歴史的仮名づかいを原則としたが、必要に応じ原本通りとした部分もある。特殊な美術・歴史用語の引用などについては原本通りとした。

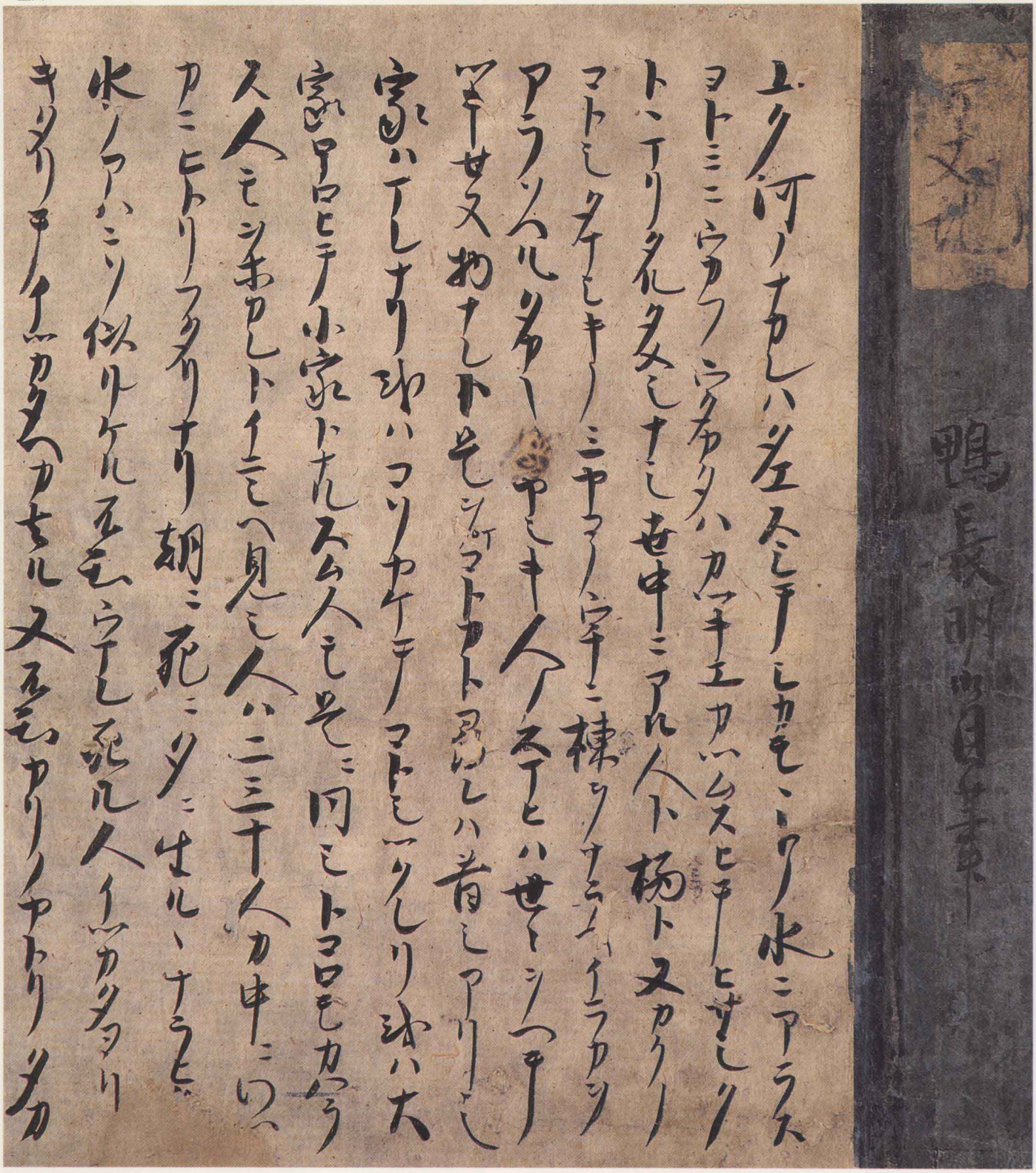
3　参考文献を各部分の章末に一括して注記し、読者の便をはかった。

4　各図版に添記した国宝・重文・史跡のうち、重文は重要文化財、史跡は国指定史跡の略である。なお、個人所蔵者名は略させていただいた。

5　本巻の図版写真および資料の収集にあたっては、その所蔵者・管理者・提供者・撮影者など、関係者各位のご好意とご協力を賜った。

〈第一〇巻・執筆者〉
お茶の水女子大学教授――三木紀人
東京国立文化財研究所――宮　次男
東京大学教授――益田　宗

〈装幀〉
後藤市三
〈レイアウト〉
宇喜多邦嘉
樋口英男



1　大福光寺本『方丈記』〈冒頭〉――現存する『方丈記』諸本のうち最古のもの。鎌倉前期の書写で，寛元2年(1244)の親快(醍醐寺第25代座主)の奥書によれば，醍醐寺にその子院の西南院より伝来したものという。後年，丹波(京都府)の大福光寺に移ったが，その経緯は不明。部分的に誤脱を含み，他本との異同も多いが，すこぶる良質の本文である。筆勢を感じさせる字体で記されており，長明の自筆と伝えられるのもうなずかれる感があるが，それを疑うむきも少なくない。鎌倉時代。巻子装。縦28.1㎝／京都府・大福光寺

2

2　山あいの里大原――大原は，隠者文学の母胎となった土地で，鴨長明も一時ここに住んだ。若狭(福井県)に至る道と大原川とを中心とし，西には大原御幸の寂光院や，歌枕朧(おぼろ)の清水が，東には来迎院・三千院など，比叡山を背景とする寺院群がある。今は観光客のにぎわいの中にあるが，昔は訪れる者もまれで，世を逃れた人々がひっそりと住む異境であった。京都市左京区大原。

3-B

4　『長明法師画像』部分――琵琶を脇に置いて坐する長明出家後の姿。血色がよく，壮気の感じられる絵である。右上の色紙形に，長明の『新古今和歌集』入集歌「秋風のいたりいたらぬ袖はあらじとぞわれからの露の夕暮」(巻第4・秋上)が記されている。その点および長明の姿形は，伝土佐光秀の肖像(栗田元次氏蔵)と同一で，それの直接または間接の臨模(模写)かと思われる。これらと酷似する伝土佐光茂のもの(宮内庁書陵部蔵)もある。なお，本図の作者と伝える土佐広周(ひろかね)は，15世紀中ごろの土佐派の代表的絵師。朝廷・室町幕府に奉仕した。室町時代。紙本着色。掛幅装。縦61.0㎝　横38.0㎝／三重県・神宮文庫

3　長明方丈石――遁世者の草庵の位置は，その跡が風化するにつれて，いつとなくわからなくなってしまうのがつねだが，長明の場合は例外である。それは，『方丈記』の力にもよるが，彼が住んだ地が，巨大な石の上だったためらしい(B図)。そこを訪れて，長明を偲んだ人の証言が，鎌倉室町期以後各時代にみえるが，その石に言及した人が多い。たとえば，細川幽斎は，「大きなる石の上に，松の年ふりて水の流れいさぎよき心の底，さこそとをしはかられ侍る」(『衆妙集』)と書き，秋里籬島の『都名所図会』には，「石床三間(約5.45ｍ)四面，高さ二丈(約6ｍ)ばかり，一説に名を千引(ちびき)の石といふ」とあり，それを図示した挿絵もある。長明の草庵の跡と伝える場所は，下から仰ぎ見ると，なるほど，これらの記述にある巨岩のように見受けられる。この地は，洛南日野の法界寺から東にしばらく歩き，山ふところにはいった所にあり，石標1基(A図)が建っている。明和9年(1772)，儒者巌垣彦明が建てたもので，裏面に碑文が彫られている。木々が茂り合い，『方丈記』によって想像する風景からすると，いささか狭い感はあるが，その記述と符合する点も多い。800年近い歳月による変貌を考慮に入れるなら，相違点をあまり気にする必要はないかもしれず，ともあれ，いかにも閑居に適した場所柄ではある。京都市伏見区日野町。

3-A

4

5

5　**京都市現景**――隠者たちが逃れ出た平安京の現状。平安京は，鴨川の西に営まれる方形の都市であったが，繁栄したのは，その東北部約3分の1にすぎず，徐々に対岸の東山に沿った地がひらけていった。それらの範囲は無論のこと，かつて都市化に取り残された各地にも，今や人家が建ちならび，往年の風景は一変した。しかし，周囲を山にかこまれた平安京のたたずまいを偲ぶことは可能である。

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com

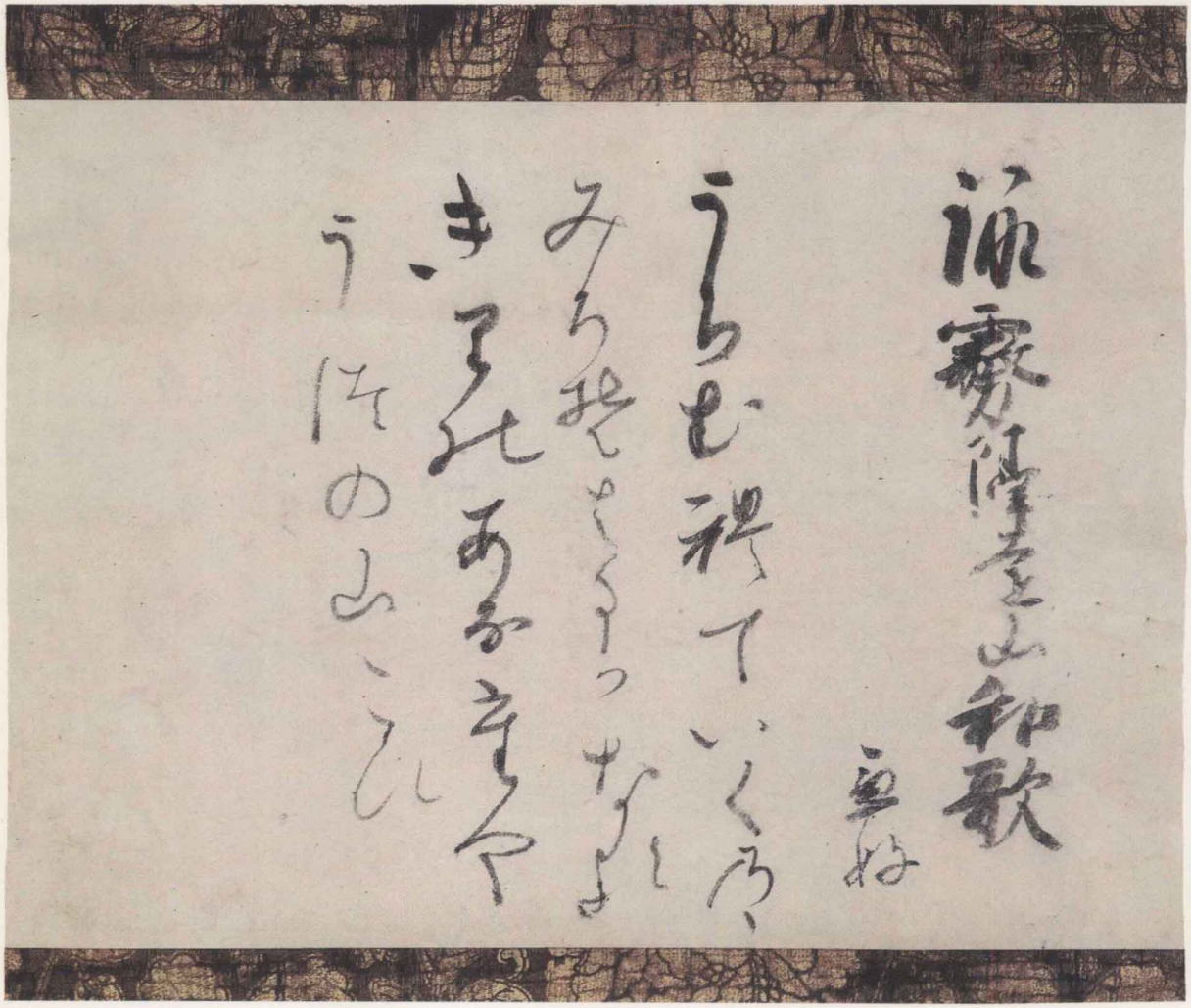
7　称名寺金堂と鐘楼――横浜市金沢区に今も残る称名寺は，北条実時(1224～76)の創建である。はじめは念仏宗であったが，まもなく真言密教に帰した。歴代の長老に高名な学僧を迎え，その隣に建てられた金沢文庫ともども，東国の学問の中心となった。金沢にゆかりの深い兼好もここに来往したことがあり，その学問的雰囲気に敬意を感じたことと思われる。神奈川県横浜市金沢区金沢町。

6　狩野探幽筆『兼好法師画像』部分――書見台を前に，頭巾をかぶり，脇息(きょうそく＝ひじかけ)に寄る兼好。彼の強固な意志と明徹な見識が感じられる絵である。狩野探幽(1602～74)の時代は，『徒然草』評価の機運が高まったころに当たる。『兼好法師家集』に「心にもあらぬやうなることのみあれば」と，詞書にある「すめばまたうきよなりけりよそながらおもひしままの山ざともがな」の詠が上方に記されている。江戸時代。絹本着色。縦81.8cm横26.5cm／神奈川県立金沢文庫

6

7

8

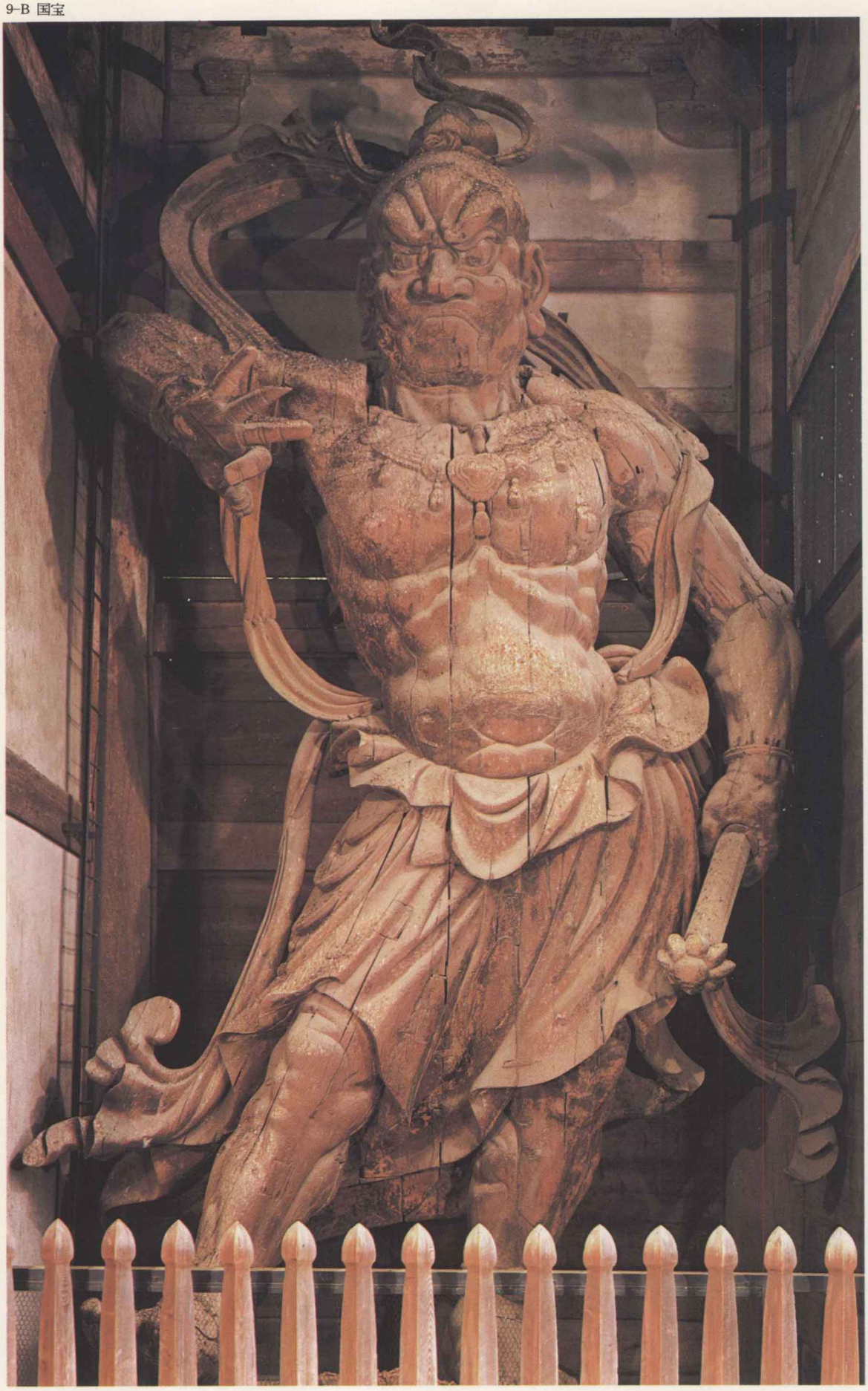


8　兼好の和歌懐紙
――兼好の和歌懐紙として伝わる唯一のもの。掛幅に仕立てられている。『墨美』第184号(昭和43年〈1968〉11月)に，「新発見の兼好筆」として紹介された。その概要および，これが兼好筆と認定し得ることについては，同誌の古谷稔氏の解説にくわしい。この懐紙に記された和歌は，従来知られている兼好の作品中にみえないが，『兼好法師家集』には，海道下りの折の体験にもとづく，「一夜寝し茅のまろ屋のあともなし夢かうつつか宇津の山越」(詞書あり)という詠がみられる。南北朝時代。掛幅装。縦29.0cm　横39.6cm

兼好の和歌懐紙・釈文

詠霧隔遠山和歌　兼好

うちむれていくの、
みちぞはるかなる
きりのあなたや
うつの山ごえ



9　**金剛力士立像〈運慶・快慶作〉**――『東大寺別当次第』によると，この阿吽(あうん)の両像は建仁3年(1203)に，運慶と快慶が仏師ら18人を動員して，70日間で仕上げたという。両像とも8m以上の巨像であるため，筋肉の盛りあがりなど，誇張的に表現されたところがあるが，それだけに迫力があり，また，天衣や裳にみられる動感には，写実の妙が発揮されている。A図が阿形，B図が吽形。鎌倉時代。木造彩色。像高(阿形)836.3cm　(吽形)842.3cm／奈良県・東大寺

重文 10-B

10-A 重文

10-C 重文

10 『地獄極楽図屏風』部分——『山越阿弥陀図屏風』とセットになっているもので，大海をはさんで彼岸(ひがん)に極楽浄土(A図)が図され，此岸(しがん)には向かって左に地獄のありさま(C図)，右に人間生活(B図)が描かれて対照的に示されている。その大海には船が浮かべられ，菩薩が船頭となって彼岸に渡る光景もみられる。浄土思想を平易に示す説話図としてはまことに効果的で，その描写も精緻をきわめている。鎌倉時代。2曲1双。絹本着色。縦101.0cm　横84.0cm／京都府・金戒光明寺

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com